

# 秋植え球根

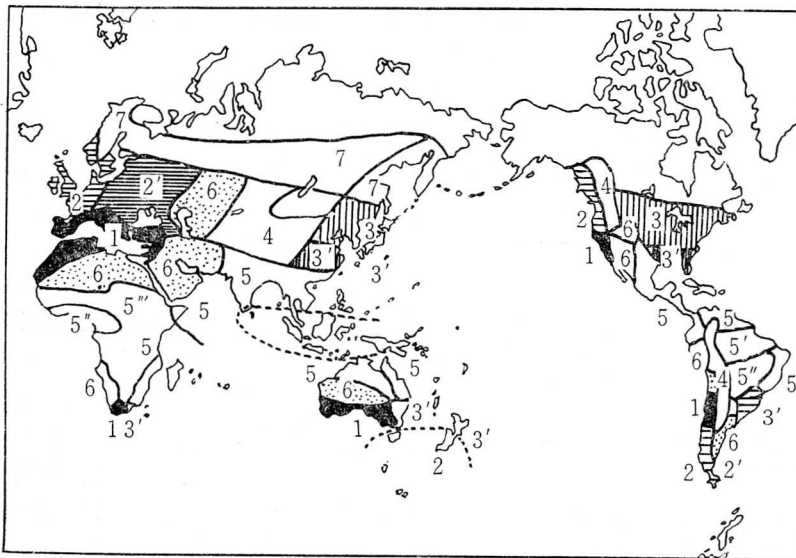
— 原生地と種類 —

北大農学部花卉造園学教室

蝶野秀郷

園芸上の球根は、植物形態学上の鱗茎 (Bulb)、塊茎 (Tuber)、球茎 (Corm)、塊根 (Root-tuber)、根茎 (Rhizome) などを総称しているもので、厳密な区分をつけているものではなく、栽培上、慣習的に球根として取扱っているもので、宿根草の特殊な形態と考えてよい。

これら球根類は、その特性上、それなりの栽培技術を要するものであるが、そのうち秋期に定植するものを秋植え球根と呼んでいる。春植え球根に対するこの秋植え球根は、一般に、夏期の高湿乾燥する時期に休眠し、低温多湿な秋から春にかけて生育、開花する。しかし、ゆり類のように開花が初夏から晩夏に及ぶものや、コルチウムやサフランのように秋期に開花するものもある。



第1図 花卉原生地の気候型 (MILLER による)

- 1. 地中海型 2. 大陸西岸型 3. 大陸東岸型 4. 熱帯高地型
- 5. 熱帯 6. 砂漠 7. 北帯

## 秋植え球根の原生地

Miller は花卉原生地の気候型と、地中海型、他の7つに分けているが、秋植え球根の原生地のほとんどは地中海沿岸、南アフリカ西部、北米カリフォルニアなどの、いわゆる地中海型気候に属していることがわかる。

これらの地帯の気候の特徴は、夏期は降水量がほとんどなく乾燥し、気温は高いか、あるいは左程あがらないかである。一方、冬期間は夏にくらべてやや湿潤となり、気温もあまり下らず7~8°C くらいである。これらの気候に適応する球根植物の生活型のいっばんな型は降水量の多くなる秋期に発芽し、冬から春にかけて生育開花し、夏期の乾燥期と土中において休眠して過ごすこととなる。

このような気候条件の地帯に原産する球根類を夏期高温多湿なわが国で栽培するには、それなりの問題点を生ずる。わが国の秋植え球根の主産地は、裏日本を中心として北海道までの積雪地帯に多いが、これは夏期比較的冷涼であり、かつ、冬期間は積雪によって極寒から球根は防護され、湿潤条件を満たしているからに他ならない。

このような秋植え球根の代表的な種類を、原生地別にあげると、第一表のとおりである。

つぎに、わが国における代表的な秋植え球根であるチューリップとユリの種類を述べる。

### チューリップの系統

チューリップは秋植え球根のもっとも代表的な草花である。

秋期、露地に定植された球根は、土中で発根を開始し、冬期間には十分に根群を発達させる。春期、4~5月にかけて開花するが、花芽分化は前年のうちに完了

第1表 秋植え球根の原生地

地帯	球根名
地中海沿岸	Allium, Anemone, Chionodoxa, Coluchicum, Crocus, Cyclamen, Galanthus, Hyacinthus, Iris, Leucojum, Muscari, Narcissus, Ornithogalum, Ranunculus, Scilla, Sternbergia, Tulips,
南アフリカ西部	Freesia, Ixia, Nerinc, Sparaxis,
北米カリフォルニア	Brodiaea, Camassia, Lilium,
その他	Convallaria, Fritillaria, Lilium,

しており、それが低温に感応して開花する。

チューリップの品種は 800 前後栽培されておりいくつかの系統に分類されている。

**Single Early Tulips** (一重早咲き系)

5月上, 中旬に開花(於札幌, 以下同様)し, 草木は 20 cm 前後で, 葉は横に広がる。花型は盃状を呈し, 単色花が多い。花壇用, 鉢植え用だが栽培数量は少ない。主な品種に **Cramoisie Brilliant** (赤), **Keizerskroon** (赤と黄の覆輪) などがある。

**Double Early Tulips** (八重早咲き)

前者と同じ頃に開花する。草木はやや低めであるが, 花径は 10 cm 以上になる。開花期間が長く, 色彩が鮮明なので, 花壇用, 鉢植え用に適する。品種に **Peach Blossom** (濃桃) などがある。

**Mendel Tulips** (メンデル)

ダーウィン種と極早咲き系 (**Duc Van Thol**) との交配種で, 花型, 草状はダーウィンに似るが, 花径はやや小さめである。高性で促成が効くので

切花用として利用される。5月中旬に開花する。代表的な品種に **Mozart** (白に桃の覆輪), **Athleet** (白) などがある。

**Triumph Tulips** (トライアンフ)

メンデルに続いて開花する。花卉はダーウィンに似て幅広く, 先端はやや丸味を帯びる。色彩は鮮明で単色と覆輪がある。花梗も強く切花用, 花壇用ともに利用される。品種には **Oraph** (赤), **Kansas** (白) などがある。

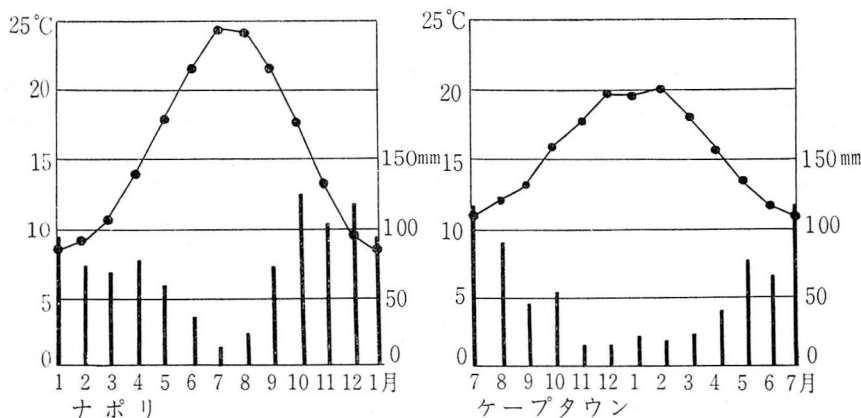
**Cottage Tulips** (コテージ)

5月下旬に開花する。花はダーウィンより小さく, いろいろな型のものが集められている。このなかには「ゆり咲き」と称して花卉の中位がくびれて弁先が開いたゆり咲き型の品種もある。主な品種としては **Bell Jaune** (黄), **Maytime** (紫, ゆり咲き) などがある。

**Darwin Tulips** (ダーウィン)

現在, もっとも多く栽培されている系統で, 花梗も太く丈夫で, 草木は 60 cm を越える。花はコ

ップ型で基部はほとんど直角になり, 花卉が開きすぎを呈することはない。また, 花卉は幅広く先端は丸味を帯び, 花型はくずれづらい。花色は単色で豊富である。低温処理に敏感なので促成切花にもっとも多く使用されるが, 露地切花および花壇用にも適する。5月中, 下旬に開花する代表的品種に **William Pitt** (赤),



第2図 地中海型気候の気温と降水量

Mamasa(黄) などがある。

### Parrot Tulips (パーロット)

ダーウィンと前後して開花する。花卉に深い切れめがはいっており、花は大輪である。他の系統のチューリップから突然変異で生じたものが多く、性質は母品種に似る。Red Parrot (赤) や Black Parrot (黒紫) などの品種がある。

### Double Late Tulips (八重晩咲き)

八重早咲きと似ているが、開花期が晩生である。花梗は強く、草木も 40 cm 近くなり花径も大きいので花壇用に適す。Nizza (赤と黄の混り)、Palette (牡丹色に黄の覆輪) などがある。

これら従前からある系統品種の他に、最近では Fosteriana や Greigii, Kaufmanniana などとの交配種が市販されるようになってきた。

### Darwin hybrids Tulips

ダーウィン×フォステリアーナの交配種で、草木は雄大で 60 cm をこえる。花径は極大輪であるが、花色はまだ豊富ではない。主な品種に Apeldoorn (ひ紅), Red Matador (赤) などがある。

### Fosteriana hybrid Tulips

もっとも代表的な品種は Red Emperor で 4 月末から 5 月初めにかけて開花する雄大な花である。他に Zombie (帯桃赤で縁はクリーム黄) や Dance (赤に淡ピンクの覆輪) などがある。花壇用および鉢植え用である。

## ユリの種類

わが国には、ユリの野生種が多く、およそ 15 くらいある。世界における分布は北半球の温帯を中心に 100 種ほどあげられる。ユリも秋植え球根の代表的な草花であるが、チューリップやスイセン、ヒアンスなどとは異なり、オトメユリなど特殊な種類を別にすれば、大部分のユリは地上部に莖葉が伸長しはじめてから花芽分化をする。低温は抽出莖の伸長をうながすので直接的ではないが必要とされる。

ユリ利用は切花、鉢植えはもちろんであるが、開花期が夏を中心として長期間に亘るため、とくにこの時期に花切れの多い花壇(宿根ボーダー)用として欠かせぬものである。

最近ではユリの育種もすすみ、多くの種間雑種が



リーガルリリー

作出されているが、ここでは在来の野生種を中心とした分類をあげる。

### テッポウユリ亜属 (Leuco Lirion)

花は筒状で横向き、まれに斜上、上向きに咲くもので香りがある種類——テッポウユリ、ハカタユリ、タカサゴユリ、リーガル・リリー、マドンナ・リリー、ササユリ、オトメユリ、ウケユリ、タモトユリ。

### ヤマユリ亜属 (Arche lirion)

花は漏斗形で大型、花被の先端は反捲し、横向きに咲き、香は強い。——ヤマユリ、サクユリおよびこれらの変種。

### スカシユリ亜属 (Pseudo Lirion)

花は盃状で上向き咲き、放香がない種類——エゾスカシユリ、イワトユリ、ヒメユリおよびこれらの変種。

### カノコユリ亜属 (Martagon)

花は鐘形で下向き咲き・香りはあるものもないものがある。——コオニユリ、オニユリ、コマユリ、スゲユリ、キカノコユリ、マツバユリ、イトハユリ、カノコユリ、クルマユリ、タケシマユリ、マルタゴン・リリー。